

報告

平成 24 年度近畿支部会

～博物館・科学館・大学と学校教育との連携～

蜂屋正雄（滋賀県立琵琶湖博物館）

小高大輔（大阪教育大学附属天王寺小学校）

1. はじめに

去る 11 月 18 日（日）、近畿支部では下記のテーマのもと、天文教育・普及に関する情報共有を目的に支部会を開催しました。

テーマ：「学校教育との連携」

日 程：2012 年 11 月 18 日（日）

会 場：滋賀県立琵琶湖博物館 セミナー室

主 催：天文教育普及研究会 近畿支部

時 間：13：00～17：00

2. 日程と概要

当日の日程は以下の通りです。

10：00 ～ 受付（希望者は館内見学）

13：00 ～ 14：00 講演

14：20 ～ 15：40 発表

15：40 ～ 16：00 休憩

16：00 ～ 17：00 発表

2.1 講演

「琵琶湖博物館と学校教育との連携事業」

蜂屋正雄（滋賀県立琵琶湖博物館）

琵琶湖博物館における学校教育に対する取り組みについてと、「はしかけ制度」や「フィールドレポーター」などの取り組みについて紹介いただいた。

「京大総合博物館との連携・京都市の

科学センターや京都市教委との連携」

野上大作（京都大学花山天文台）

中道晶香（京都産業大学神山天文台）

京都大学総合博物館と花山天文台の連携、京都市の科学館博物館連盟の取り組みなどを

教えていただいた。京都という地の利の良さとともに、教育センターという組織と上手に連携してきたイベントについて紹介いただいた。

2.2 発表①

「天究館と学校による環境教育活動」

高橋進（ダイニックアストロパーク天究館）

星空観察を環境教育（光害）という視点で、たくさんの地域の子供たちのデータを評価し、まとめ、返していくことにより、地域の環境データを地域の子どもたちと作るという活動について紹介いただいた。

「京都産業大学神山天文台の

『天文を伝える』実践教育」

吉川智裕（京都産業大学神山天文台）

「神山天文台ボランティアチームのあゆみ」

近本衛・鈴木杏那

（京都産業大学神山天文台ボランティアチーム）

神山天文台の運営やそれに伴うスタッフの研修について、また、異分野の大学生によるいろいろなアイデアが形になりつつある活動の様子について紹介いただいた。

『『宇宙にいちばん近い高校』

プロジェクトの立ち上げ」

有本淳一（京都市洛陽工業高校）

藤井大地（大阪教育大学）

工業高校ならではの実践教育を教えていただいた。「ロケットを作る」というゴールを設定して、そのゴールに向かう過程で、必要な物理などを生徒が学ぶ必要感を持って学習するという、プロジェクト型学習の取り組みに

ついて紹介いただいた。

2.3 発表②

「古事記の中の天文現象」

作花一志（京都情報大学大学院）

天文で歴史を解釈する試みについて教えていただいた。古事記の出来事を天文の視点でとらえたとき、どのような天文現象が起きたと考えることができるのかをシミュレーションに基づいて紹介していただいた。

「大阪ステーションシティで

流星の電波観察・観望会」

成田直（川西市立北陵小学校）

大阪ステーションシティでの星空観望会、流星観望会の様子、成果や課題についての発表。混乱や事故の無いように少人数で実施し、じっくりと見てもらえた反面、見られずに帰ってしまった来場者もいたのではないかということだった。また、流星の電波観測を音で聴いてもらう試みについても紹介いただいた。

「京大病院小児科病棟での天体観望会の報告」

鈴木裕司（京都大学理学研究科

宇宙物理学教室）

京都大学附属病院小児科に入院中の子どもたちに向けた観望会や星のお話をする活動について、その成果と課題についての発表。病院ならではの観望における工夫や移動式プラネタリウムによる解説など、入院中の子どもたちが星を身近に感じてもらえるようにするための工夫や苦勞について紹介いただいた。

「合科による天文学習の一例

言語活動を中心として」

西村一洋（枚方市立樟葉西小学校）

芸術分野で活用されている ACOP 教育を天文教育でもやってみようという実践について紹介いただいた。この実践は、「天文教育」の中の大阪市立科学館の石坂さんの論文の追試

という形でなされていた。ゴッホの「ローヌ川の星月夜」という作品に出てくる星空は、何を描いたのだろうか、という発問を元に、子どもたちの天文に対する知識を総動員して答えを推測していくということを、言語活動という視点をもとに紹介いただいた。

「今年の天文現象を終え、

今後の活動のあり方へ」

斉藤秀樹（長野市立博物館/京都大学大学院）

日食観望会をはじめ、様々な活動の成果と課題から、どのような活動が天文を普及させるために必要であり、どのような可能性があるかについて紹介いただいた。

3. おわりに

当日は 21 名に参加していただき、講演も含めて 11 本の発表がありました。5 月の金環日食にかかわる発表に限らず、それぞれの会員が日頃から取り組み積み上げられてきた実践の発表が多くありました。

学校との連携については、それぞれの学校との連携活動をどう評価していくか、連携の前後でどのような子どもの変化・変容があったかを評価する方法を示し、改善していければと感じました。

今回、天文施設ではない滋賀県立琵琶湖博物館で、縁あって近畿支部会を開催することになりましたが、琵琶湖博物館の取り組みは、天文普及でも取り入れることができるような感じました。天文教育普及や学校教育との連携について、他の分野での取り組みも参考にするとよいように感じました。

蜂屋 正雄

小高 大輔